

「新・三春病院経営プラン」の点検及び評価

平成30年7月
三春病院事業運営協議会

○ 要 旨

町では、総務省からの通知に基づき、平成20年度に「三春病院経営プラン」を作成し、平成24年9月には一部改正を加えた。

平成28年3月31日付け、国の「新公立病院改革ガイドライン」に基づき、町では、平成29年3月に「新・三春病院経営プラン」を策定し、人口減少や少子高齢化が急進する社会情勢の中で、適切な医療供給体制が整備されるよう取り組み状況や成果を検証することとしました。

この計画の進捗及び達成状況については、本協議会が点検及び評価を行うこととされていることを踏まえ、実施したものである。

なお、三春病院は指定管理者制度を採用しており、平成19年度より指定管理者は公益財団法人星総合病院（平成24年12月12日公益認定）である。

1、点検・評価の観点

「新・三春病院経営プラン」では、地域住民が安心して利用できる患者中心の医療提供に努めることを基本理念とし、地域医療機関と連携しながら、住民ニーズにあった最善の医療サービスを提供することとしている。

そこで、総合的な点検・評価は、次の2つの観点から行った。

- 町立病院として地域医療全体の質の向上という観点から果たすべき役割を果たしているか。
- 病院運営にあたって何が課題となっているか。

2、取組事項の点検・評価結果

点検・評価は、計画に掲げた取り組み事項（別紙「新・三春病院経営プランの点検結果一覧」参照）について、現在の達成状況を整理し、次の事項別に検討・評価を行った。

（1）町立三春病院が果たすべき役割について

三春病院には、地域の中核病院として「基礎的医療」の提供と「一次救急医療」としての機能が第一義に求められている。

県立病院時代と比べ、分娩は休止しているが、訪問診療と往診を継続して実施し、医療提供のニーズに応え土曜日診療を継続し、泌尿器科や心療内科など地域に不足する診療科を開設している。心療内科については、29年度から、木曜診療を隔週で開始し受診し易い体制を確保した。また、年度途中で整形外科の非常勤医師の退職により、診療日数が減少する状況になったが、非常勤医師2名を増員し、30年4月から診療日を1日増やせるよう体制確保

に努めた。産科・分娩の再開は医師確保の課題により実現に至らないが、28年4月より星総合病院と連携し産後のサポート事業として、助産師外来を開始し継続実施している。また、町事業である産後ケア事業、産前産後サポート事業「ままカフェみはる」などへの助産師派遣等協力、連携を図っている。

救急医療については、救急指定日以外の外来や入院を受け入れ、来院患者数1,449人・入院患者数582人を診療し・救急車搬入者数は241人と、昨年度より53人多く受入れており、三春病院が田村地域の救急医療に対応した実績といえる。

医療安全管理体制整備として、29年度から安全管理部実働部隊にセーフティマネジメント部会員が、チーム活動にて安全管理を強化、徹底している。転倒転落によるアクシデントが3件であった。0レベル（事故に至らず未然に防止したヒヤリハット）の報告件数を増やし検証する事で、医療事故の防止に繋がるため、職員の丁寧な報告に努め、年間212件の報告があった。今後とも職員の意識改善に努め再発防止に取り組んでほしい。安全性の確保と住民の信頼確保のためにも今後とも事故発生0件をめざし、組織的に取り組みを継続してほしい。

なお、職員研修は院内外研修会・自己啓発制度活用研修や資格取得スキルアップ等積極的に開催・参加されている。

(2) 公的医療機関としての役割について

三春病院には、公的医療機関として、地域医療の充実に寄与すること及び災害時の拠点病院となることなどの機能も期待されている。

医療情報や地域医療の課題などを医師会と共有し、効果的な医療福祉の推進については、三春町医療機関連絡会議や三杏会（町内医師、歯科医師、薬剤師の組織）と随時協議が行われている。また、CT検査の受託462件、紹介患者の入院427件など、開業医患者の術後や検査入院を受け入れ、共同指導も一部開始している。

また、平成26年7月に開設された訪問看護、訪問リハビリサービスでは、利用者の増加に伴い、看護師1名を増員し、多様な利用者ニーズに応える体制を確保した。

例年同様、平成29年度においても患者及び利用者の満足度調査を実施し、患者の思いを確認することに努め、外来及び回復期病棟では約85%の方が満足しているとの結果を得ている。また、一般病棟では、100%が満足と回答しており、高い満足度が確認されているが、今後も引き続き、受診しやすい体制づくりや、患者の精神的負担の軽減、安心して利用できる取り組みなどに期待したい。

災害時には地域拠点病院として、非常時に備えた体制構築が求められるため、消防署との連携や、「ふくしま病院連携ネットワーク」への加入などにより、有事の際の県内医療機関との情報共有、連携体制を図る取組を行っている。

(3) 地域包括ケアシステムの推進

保健福祉施設と三春病院が双方で連携することにより、住民は必要な時に必要なサービスを

受けることが容易になる。

住民の保健予防活動については、各種予防接種、施設健診（住民健診）、特定保健指導事業、乳幼児健診等を町から受託し実施している。さらに、病院における個別のがん検診の受託実施及び読影会の開催など、町内医療機関と協力し町民の健康管理とがん予防に取り組んでいる。

地域福祉の連携については、田村地域の三つの老人施設の嘱託医の受託やリハビリスタッフの入所者への助言指導なども実施している。

相談室を設置し、退院後の生活支援のために、リハビリテーションスタッフによる事前訪問や社会福祉士の地域ケア会議への参加など、安心して自宅へ戻れるための支援を行っている。

介護予防事業では、通いの場づくりへのスタッフ派遣や認知症カフェを開催し、地域資源の開発につながっている。また、認知症初期集中支援チームを29年12月に設置し、地域包括ケアシステムを推進する体制づくりに貢献している。

小児科医師、助産師、看護師など医療機能、人材を活用し、育児相談や教室などの町の子育て支援事業への協力にも力を注いでいる。

また、医療職合同研修会や連携会議など地域の関係機関との連携を円滑にする事業展開を図っている。

（4）地域の発展に貢献できる病院運営の実践

病院が地域住民に親しまれば、様々な派生効果が期待できる。

三春病院では、「三春フェスタ」の開催や、職場見学・職場体験によって多くの学生や住民を受け入れしている。さらに、職員が町の行事（さくら湖マラソン、盆踊り、秋祭り等）に継続して参加協力していることは、職員による「信頼される病院づくり」の意欲の表れと評価できる。

また、1階ホールの交流スペースを活用し、町民や高校生の作品展示、健康講座の開催など、コミュニティ施設としての機能を果たすプログラムづくりを行い、積極的に取り組んでいる。

計画では、地元出身の医療従事者の積極的採用、職員の地域への定住促進、地域産業との連携が期待されている。

現在、病院使用の米は全量三春町産を使用している。併せて地元産野菜の仕入れ等により地域振興に貢献しているが、今後の更なる拡充を期待したい。

（5）数値目標と実績について

指定管理者の数値目標については、1日あたりの入院患者数は目標を達成したが、患者一人当たりの診療収入は、外来、入院ともに減収となった。一般病棟の入院患者確保は必ずしも望ましいとは言えないが、回復期病棟を含め病床稼働率の改善に向け、地域の医療機関との更なる連携促進が求められる。（点検一覧Ⅱ－1－1 参照）

○ 指定管理者の決算は、平成29年度の経常損益は約21万円の赤字となった。正味財産は1億6646万円の赤字であり、指定管理者により負担されている。

- 外来患者数は目標を達成し、1日平均150人であった。患者数は診療日数や医師数と相関関係にあるので、指定管理者の努力を期待したい。
- 1日当りの入院患者数は68人、病床利用率は79.07%で、目標を達成している。
- 材料費その他の経費については、計画を上回ったが、前年度よりは下回り、経費節減の努力について評価できる。

3、町一般会計の負担額等について

- 「新公立病院改革ガイドライン」に基づく「新公立病院改革プラン」作成は、自治体の財政負担軽減の視点から策定が義務付けられている。平成29年度に一般会計が負担する経費は、5979万円となった。新病院建設後10年が経過し、備品更新及び施設設備の改修を行ったが、施設改修工事費用については、経年劣化等により、今後も引き続き経費の増加が見込まれていく。
- 指定管理者が負担すべき「指定管理者負担金（2773万円）」は、平成21年度分から支払うことで協定が締結され、続けて納付されている。

4、総 括

- (1) 前記、「2 - (1) 町立三春病院が果たすべき役割について」、「(2) 公的医療機関としての役割について」にあるとおり、地域医療の中核機関として積極的に役割・機能を果たしており、訪問看護ステーション事業の充実や入退院支援室の設置など機能充実に取り組む姿勢は高く評価する。
- (2) 指定管理者の平成29年度の経常損益は21万円の赤字となった。医業収入の減少によるもので、今後も診療体制の維持向上に努め、安定した経営が継続されることを期待したい。
- (3) 産婦人科の常設については、医師確保等困難な情勢は理解できるものの、当初の目標をあきらめずに取り組みの実現を望む。
一方、助産師外来の開設や子育て支援事業の連携、協力は、安心して産み育てられる地域づくりのための取り組みの工夫であり、今後の効果的な運営を期待したい。
- (4) 個別のがん検診受託や救急医療体制の努力を評価するとともに、地域医療の中核機関として町内医療機関介護事業所等の連携に、中心的役割をさらに期待したい。
- (5) 三春病院、三春町敬老園、三春町第一保育所の相互連携による事業展開によって、各々の利用者及び地域住民に対して幅広い効果があがるよう期待したい。